

作品タイトル：天国への鍵

名前：Parade556

登場人物表

五十嵐 誠司 (55) ……少年院の教官
伊織 駿 (15) ……高校生(事故死)
藤原 悠真 (15) ……無職↓受刑者
榊 拓海 (16) ……無職↓受刑者
野島 大地 (16) ……高校生↓受刑者
早瀬 信行 (60) ……カトリック教会の司祭
早瀬 聖子 (60) ……信行の妻

○教会・礼拝堂（夜）

カトリック教会。ステンドグラスから月明かりが差し込み、床を照らす。壁画には聖書のエピソードが並ぶ。

伊織駿（15）、藤原悠真（15）、榊拓海（16）、野島大地（16）、目出し帽と黒ずくめの服で侵入。

伊藤「よし、行くぞ」

藤原「ビビんなよ。お前ら」

榊「黙れ。マジで」

野島「…やめようよ」

藤原「バカ。じゃあどうやって金返すんだよ」

榊「あ。見ろ。アレだよ」

榊、祭壇の横にある聖ペテロ像を見上げる。像は、右手にロザリオがかかっている。

4人、ペテロ像の前へ。

藤原「ガチ金じゃねえ？ これ」

榊「取れ。警報あつかな」

伊藤「俺がやる」

藤原・榊「おお」

伊織がひらりと祭壇に昇り、手を伸ばすとロザリオを取る。

早瀬（声）「君たち」

全員、反射的に振り向く。

早瀬信行（GO）が立っている。

一瞬、誰も動けない。

伊藤、早瀬に近づいていくといきなり殴りつける。

早瀬「うぐっ」

早瀬、床に倒れる。

伊藤、持っていたスパナを取り出し、早瀬を殴る。藤原と榊、輪に加わり、早瀬を袋叩き。

早瀬「やめて。助けて。助けてくれ」

早瀬が悲鳴をあげるも、機械的に殴りつづける3人。

野島、震えて座り込んでいる。

○教会近くの通り（夜）

4人の少年、逃げている。

遠くからパトカーの音。

伊藤「こっちだ」

伊藤、大通りに飛び出す。伊藤、乗用車にはねられる。

あ、となる3人。

伊藤の手にはロザリオ。

3人の足元にロザリオ。

伊藤「（虫の息で）た、たすけてくれ」

目出し帽をかぶった3人の目が泳ぐ。

藤原、ロザリオを手にとると走って逃げていく。榊、野島も逃げる。

伊藤、こと切れる。

○どこかの路地（夜）

3人、目出し帽を脱ぎ、ロザリオを見る。ただの木製のロザリオ。

藤原「マジかよ。くそっ」

○少年院・グラウンド

運動会の準備をする刑務官たち。

受刑服を着ている藤原、榊、野島。

刑務官、五十嵐誠司(55)が現れ

る。その手にはバトン。

3人、整列し背筋を伸ばして立つ。

五十嵐「ラストのリレーの練習をやる。

400mリレーなんで、ラストは俺が

走る」

3人「はい」

五十嵐、バトンを差し出すが、誰

も取らない。

五十嵐「明日は、被害者の奥様もいらっ

しやる。お前らのこと、許すとおっし

やってるそうだ」

3人、誰も反応しない。

職員の声「五十嵐さん。お電話です」

五十嵐、バトンを地面に置き、事

務所の方に歩いていく。

藤原「ありえねえよな」

榊「でもさ、死んだわけじゃないしさ」

野島「みんながやったんだからな」

藤原「テメエ、今更かよ」

榊「やめろ。また懲罰くらうぞ」

藤原「くそっ」

野島「でも、伊藤が一番やってた」

榊・藤原「だよな」

3人、バトンを見下ろす。使い古

された木製のバトン。所々塗料の

はげたあの時のロザリオに酷似。

誰もバトンに触れない。

○同・渡り廊下

五十嵐、固定電話に出る。グラウ

ンドの3人の様子が見える。

早瀬聖子（声）「早瀬でございます」

五十嵐「あ、早瀬さん」

聖子（声）「主人が先ほど、主のもとへ

旅立ちました」

五十嵐「え…」

聖子（声）「主人は最後まで、あの子達のことを気にかけておりました」

○（回想）病室・病室

早瀬が眠っている。早瀬聖子（60）、
早瀬の手を握っている。

早瀬「持っていきなさい。それは天国への…鍵だ」

モニター音が消える。

○元の渡り廊下

五十嵐、電話の前で固まっている。

五十嵐「…あ…そ…その…」

五十嵐、グラウンドを見る。

無邪気にふざけ合う3人がいる。

聖子（声）「あの子達のこと、毎日、祈っています。主のもとで、主人も、きつと」

五十嵐、受話器を持つ手に力がこもる。

聖子（声）「申し訳ございません。明日の運動会、伺えなくなりました」

五十嵐「それは。はい。全然。その…」
五十嵐、二の句が継げない。

○少年院・グラウンド

五十嵐、3人の前へ。

3人、騒ぐのを辞めて整列。

五十嵐「司祭が、亡くなった」

藤原「…マジか」

榊「死んだ？死んだんですか？」

野島「だから辞めようって言ったんだぼくは」

野島、しゃがみこんで泣き出す。

榊「最初に殴ったの、お前だからな」

藤原「俺じゃないだろ。伊藤だろ」

五十嵐「静かにしろ。静かに」

二人、黙り込む。野島泣いている。

五十嵐「お前らは、人を殺したんだ。これは変えようのないことだ。裁判も、

やり直しになるだろう」

3人、言葉を失う。

五十嵐、バトンを指出す。

五十嵐「それでも、お前らは走るんだ」

藤原「何のために？俺は、それどころじやないっすよ。人を殺しちまったんだ」

五十嵐「そんなの関係ない。明日、運動会がある。お前らはリレーの選手に選ばれた。だから走るんだ」

榊「でも俺ら…」

五十嵐「お前らの事情なんて関係ないんだよ。お前らは今、ここにいて、明日、走る。走らなくちゃいけない。それだけ。は事実だ」

野島、目の前のバトンを掴む。

藤原「あ、ふざけんなよ」

榊「俺だろ」

3人、バトンを奪い合う。

五十嵐、取っ組み合う3人を見ている。

他の刑務官たちが止めようとするも、五十嵐、手で制する。3人、ボロボロと泣いている。

○少年院・グラウンド

*運動会当日。

スタートラインに藤原が立つ。

○同・観覧席

満席だが、ひとつだけ、空席。

○同・スタートライン

五十嵐が、藤原にバトンを手渡す。

五十嵐「全力で走れ。最後は俺が受け取るから」

○同・リレースタート（第一走者）

藤原が先頭を走っている。

次の走者、榊にバトンを渡す。

○同・リレー（第二走者→第三走者）

榊も先頭で走り、野島にバトンを渡そうとするも、野島が落とす。歓声や応援歌などはない。バトンの音がグラウンドに響き渡る。次々と野島を追い抜いていく他の走者たち。

○同・リレー（アンカー）

五十嵐「拾え野島。拾え。諦めるな」

野島、泣きながら拾い走り出す。

観客席から拍手が沸く。

野島、泣きながら走る。

五十嵐、観客席（空席）に目をやると深々と頭を下げる。

五十嵐、顔をあげると走ってくる

野島が見て初めて笑顔を見せる。

五十嵐「よし、任せろ」

五十嵐、野島からバトンを受け取ると走りだす。